

小林一三 実業家、政治家。都市近郊私鉄経営のため、宝塚歌劇・ターミナルデパートなど近代娯楽を開拓。

こばやしちぞう

明治6年政変 1873 = 山梨県に生まれる。その年に母が死去し、養子であった父も離縁して実家に戻る。

明治14年政変 1881 = 8歳 :

新体詩抄・・・1882 = 9歳 :

初の対等条約1888 = 15歳 : 上京して慶応義塾予科に入学、この時、三田の高台から初めて海を見た。

帝国憲法発布 1889 = 16歳 :

帝国議会始・・・1890 = 17歳 : 東洋英和女学校のラーチ校長が殺された事件の記事をもとに、{山梨日日新聞}に小説を連載。

足尾鉞毒始・・・1891 = 18歳 :

大本教・・・1892 = 19歳 : かるうじて慶応義塾を卒業、

郡司千島探検1893 = 20歳 : ある女性に惹かれたり、時代小説を連載したりして、延び延びにしていた三井銀行にやっと出勤、まもなく大阪へ転勤となる。

日清戦争始・1894 = 21歳 :

六畳間に下宿すること5年、放蕩生活、愛人生活などもあって、八幡製鉄始・・・1897 = 24歳 : 名古屋へ左遷され、そこで身をかためようと、愛人を妻にして所帯を持つ。

Bushidou・・・1899 = 26歳 : 再び大阪勤務となり、一度別れたが、ついに正式に結婚した。

ピアノ国産化・1900 = 27歳 :

田中正造直訴1901 = 28歳 : 東京本店勤務となった。

この間も上司と合わずに、閑職に左遷される。不遇に耐え切れず、

日露戦争終・1905 = 32歳 :

満鉄発足・・・1906 = 33歳 : **三井銀行を辞職、子供3人を抱えて大阪に移住。株式にも失敗し、仕事もなく悲嘆にくれていているところ、**

韓国反日暴動1907 = 34歳 : **阪鶴鉄道に拾われ、箕面有馬電気軌道創設事務の一切を引き受け、専務となり、**

伊藤博文暗殺1909 = 36歳 :

韓国併合・・・1910 = 37歳 : **開業にこぎつける。乗客誘致のため沿線で住宅地を分譲、**

大逆事件判決1911 = 38歳 : **宝塚新温泉を開業、**

明治天皇没・1912 = 39歳 :

大正政変・・・1913 = 40歳 : ***箕面動物園が失敗して廃止、その他の娯楽施設を宝塚に移して遊園地を開き、宝塚少女歌劇団を興し、**

第一次大戦始1914 = 41歳 : **初公演、以後大当たりとなったその時、北浜銀行事件が勃発、存亡の危機を迎えた。**

何とか收拾したが、以後、岩下疑獄事件問題として、10年近く苦しむ。その他にも災難が続き、

本格政党内閣1918 = 45歳 : **箕面有馬電気軌道を阪神急行電鉄と改称(現阪急電鉄)して猛進。**

大暴落・・・1920 = 47歳 : **さらに梅田のビルにマーケットを開設するなど、その独創的な経営戦略は私鉄経営の模範とされた。**

原敬首相暗殺1921 = 48歳 :

水平社結成・・・1922 = 49歳 : 岩下疑獄事件問題の確定判決が出る。

金融恐慌・・・1927 = 54歳 : **社長に就任。**

共産党事件・・・1928 = 55歳 : **東京電灯(東京電力)の経営再建で活躍。**

世界恐慌・・・1929 = 56歳 : ***梅田のマーケットを我が国最初のターミナルデパート阪急百貨店とする。**

満州事変・・・1931 = 58歳 :

五一五事件・・・1932 = 59歳 : **興行界にも進出し、東京宝塚劇場、**

芥川直木賞始1935 = 62歳 : 「私のゆき方」。

二二六事件・1936 = 63歳 :

日中戦争始・1937 = 64歳 : **東宝映画を創設して、松竹に対抗。**

第二次大戦始1939 = 66歳 : 日本軽金属を設立して、社長。

大政翼賛会・・・1940 = 67歳 : **第2次近衛文相内閣の商工大臣となるが、官僚の経済統制の動きに反対し、岸信介商工次官を解任して辞任に追い込まれる。**

日米開戦・・・1941 = 68歳 :

創価学会検挙1943 = 70歳 : 東京宝塚劇場と東宝映画を合併して東宝とする。

敗戦・・・1945 = 72歳 : **幣原喜重郎内閣の国務大臣兼復興院総裁に就任したが、公職追放にあう。**

独立回復・・・1951 = 78歳 : **追放解除後は東宝の社長に復帰。**

メテ-事件・・・1952 = 79歳 : 「逸翁自叙伝」。

自衛隊発足・・・1954 = 81歳 :

国連加盟・・・1956 = 83歳 : ***大阪梅田、東京新宿にコマ劇場を設立して、**

なべ底不況・・・1957 = 84歳 : **没した。**

シリーズ「人間の記録」、邦永史郎「豪商物語」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、平凡社百科事典、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、「なにわ人物譜」、